

I 研究成果の紹介（第2回）

平成24年度の試験研究主要成果（普及）について紹介します。詳しい内容は、農業研究所ホームページにも掲載してあります。ぜひご覧になって下さい。

1. 適期に栽培管理を行うための小麦「さとのそら」の発育予測法

小麦「さとのそら」の莖立期・出穂期・成熟期を、気温・日長データを用いたモデルにより予測できるようになりました。予測結果は追肥・麦踏み・赤かび病防除等の作業計画作成に活用できます。

予測方法は、予測したい圃場の最寄の気象観測地点を選び、出芽期、莖立期、出穂期のいずれかの日付を入力することで、以降の莖立期、出穂期、成熟期を予測することができます(図1)。予測モデルは農業研究所ホームページから入手できます。農業研究所ホームページ<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/> ”お知らせ”の【「さとのそら」の発育予測モデルを公開しました】からダウンロードしてください。モデルの使用法は、ファイルの[使用法]シートを参考にしてください(図2)。



図1 予測モデルのイメージ

月・日	出芽期	莖立期	出穂期	成熟期	年平均気温(°C)	本年平均気温(°C)	予測用データ
10月18日	0	-	-	-	14.8		
10月19日	0	-	-	-	14.5		
10月20日	0	-	-	-	14.4		
10月21日	0	-	-	-	14.2		
10月22日	0	-	-	-	14.0		
10月23日	0	-	-	-	13.8		
10月24日	0	-	-	-			
10月25日	0	-	-	-			
10月26日	0	-	-	-			
10月27日	0	-	-	-			

図2 予測モデルの表計算ファイル [使用法] のシート

Ⅱ 水稻新品種「一番星」，「ふくまる」をテーマに， 第2回主要課題現地検討会を開催

7月24日に水田利用研究室（龍ヶ崎市）において，水稻新品種「一番星」，「ふくまる」（いずれも品種登録出願中）の栽培試験や生育状況等を中心に，第2回主要課題現地検討会を開催しました。生産農家，JA及び関係機関等の職員ら65名の方に参加頂きました。

◆検討内容

○「一番星」について

「一番星」の極早期収穫技術に関する試験，多収・良質米栽培に関する試験について検討を行いました。生産者からは，『一番星』は出穂期が『あきたこまち』と同じかやや早い，『あきたこまち』比べ『一番星』の方が倒伏に強そうである栽培しやすい，「莖数が早く確保できる」など良い特性を持っているとの評価を頂きました。また，今年は「一番星」の種子量が十分でなかったことから栽培を希望したができなかったため，新品種の採用時には十分な種子量を確保してほしいと要望がありました。



○「ふくまる」について

圃場では，全量基肥施肥技術に関する試験について検討を行いました。室内では，県内各地の「ふくまる」の生育状況と今後の対応について検討を行いました。また，産地振興課からは，今年より本格栽培が始まった「ふくまる」の区分出荷について説明がありました。

作物の生育情報はこちらから

農業研究所では，水稻，麦類，大豆，かんしょ，落花生の生育情報をホームページ上で提供しています。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>

編集・発行／茨城県農業総合センター農業研究所
〒311-4203 水戸市上国井町3402
TEL029-239-7211(代) FAX 029-239-7306
水田利用研究室
〒301-0816 龍ヶ崎市大徳町3974
TEL 0297-62-0206 FAX 0297-64-0667
Mail nouken@agri.pref.ibaraki.jp
URL <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>